

誠美だより

11

 2014/NOV
 誠美保育園

駆ける、駆ける、駆ける

10 月も下旬に入ると秋晴れが続く、朝になると「いつてきまーす。」とおにぎりを携え、園外へ出かけていく姿が続きました。私も 4 歳児「あおぞら」のみんなと、多摩センターにある公園でおにぎりを頬張ってきました。

特に遊具らしいものがない、草地がただただ大きく広がる丘を、子どもたちは、ひたすら走ります。始めは丘の下にある大きな池を目指し、そこで鯉の観察に飽きると、先ほどシートを広げた基地に向かって、丘を駆け戻ってきます。そこで、誰かとひと言ふた言交わすと、また池の縁に集まる群れに向かって駆け下りていくのです。

そして、シートの基地と池、2 地点の間に、大人がもう一人立つてあげると、子どもたちは、自然とそこを通過点と見定めて、一定の往復ルートが出来上がりました。

せっかくの広々とした丘を、気の向くまま思い切り走らせてあげたいけれど、遠くの見えない場所に行かれてもと思うのですが、このくらいの年齢になると、大人や子ども同士とのやりとりを楽しみながら、遊

ぶようになっているので、うまく基点を作ってやると、こちらが極端な制限を加えなくても、上手に遊ぶものなのです。

それでも、ルートから大きくはずれた場所でお弁当を広げているおじいちゃんに、何やら熱心に話かけている子が目に止まりました。あれ？と気にはなつたのですが、これもまた園外ならではの、見守っておく事にしました。

園長 折井誠司

「みんなの作品展」募集！

文字通り「みんな」の作品を展示する会です。子どもたちだけでなく、保護者や地域の方々の作品も数日間、展示させて頂き、みなさんの作品発表の場、作品を通じた交流の場となり、共に、創ること、表現することの楽しさを味わえたら、と思っています。

子どもたちは、年間通じて製作活動を行いながら、その都度展示しているため、この時期に、特別な期日を設けておりません。その年その年の子どもたちのようすや、造形活動の内容、盛り上がりに応じて、柔

軟に設定しています。期日をあまりに固定化してしまうと、子ども自身が創ることを楽しむ気持ちよりも、期限に間に合わせることに気持ちを奪われがちだからです。作品作りに対するこだわり方やペースは、人それぞれです。まずは、日常の活動や年間通した造形活動を通じて、作る喜び、楽しさを感じることを大事にしたいと考えています。

期間はだいたい11月4日(火)～14(金)としておりますが、だんだんに展示が増え、期間も柔軟な作品展です。保護者ご自身の作品、ご友人の作品、お子さんがご家庭で作った作品など、何でも構いません。世には、「コレクション展」というものもあります。珍しいもの、貰ったもの、拾ったもの、買ったものでも、その人なりの特別な思いが込められているものなら、それも作品なのだと思います。色々な「モノ」を通して、みんなで交流しませんか？ ぜひ、ご出展いただければと思います。

園庭の冬支度始まる

10月初旬、園庭に冬用の芝生の種を蒔きました。ひと月ほど立ち入りができなくなるため、園庭向こう正面に渡るための橋を渡しています。ヒゲノート(<http://hoikuen.jp/higenote/>)にも書きとめてみましたのでぜひ読んでみてください。

利用者調査×切延長

先日、配布しました福祉サービス第三者評価の保育サービス利用者調査のメチを、11月14日(金)まで延長します。

既に調査用紙が手元にならない方は、私書箱の上のものをお使い頂き、私書箱の上にある園内のポストに投函して下さい。

この調査は、東京都がよりよい保育サー

ビスを目指し、社会福祉施設に対し実施するもので、日頃、利用者が感じていらつしやることを把握するため、登園も毎年このアンケートを実施しております。集計は、保育園ではなく、東京都に認証されている評価機関(調査会社)が行います。

調査内容に関しては、都内の全保育園において共通項目となっており、また、各施設では、その結果を外部評価機関と共に分析をし、施設運営の質の向上へと、活用していくことになります。

回収率が上がるほど、精度の高い結果を得る事ができますので、お近くのポストにご投函下さい。

ようこそ誠美へ

10月と11月に0歳児1名ずつのお子さんが入園しました。

●編集 誠美保育園
●編集人 折井誠司
●印刷所 誠美保育園
●発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-12

電話 042-675-1551

ファックス 042-677-5643

E-mail sei@hoikuen.jp

<http://hoikuen.jp/>